第１分科会　話すこと・聞くことＩ（スピーチなど）

ことばを蓄え、ことばを生かす国語教室の創造

～「話すこと・聞くこと」の学習を通して～

１　研究のねらい

西臼杵地区は、山間部に位置し、全中学校６校のほとんどが小規模校である。それぞれの学校で実施された宮崎県学習状況調査やＮＲＴ検査、全国学力調査、国語に関するアンケート調査の結果から、「分かりやすく話すこと」「聞き取った内容を自分の考えに生かすこと」「課題の解決に向けて互いに話し合うこと」の三つの項目が他の領域に比べて苦手意識や抵抗をもっている生徒が多いことが明らかになった。

現行の学習指導要領では、「話すこと・聞くこと」において各学年の目標の冒頭に「目的や場面に応じ」という文言が繰り返されている。これは、場面や状況に応じた話し方や聞き方ができるよう指導することを強調したものといえる。そこで、「話すこと・聞くこと」に抵抗を感じている生徒に対し、興味・関心を高めながら相手や目的をより意識させた学習指導の在り方について研究を行ってきた。

２　研究の内容（実施　１・２年）

（１）　実態把握

①　西臼杵地区６校の全学年生徒を対象に実態把握のためのアンケート調査結果分析（詳細は別紙）

ア　話すことが苦手だと感じている生徒（７割以上）

- 緊張するから。（心理的な要因）
- 自分の意見に自信が持てないから。（根拠が考えられない）
- 相手意識をもつことが苦手だから。（聞いている人の反応に対応できない）

逆に、得意だと回答した生徒（３割以下）

- みんながうなずきながら聞いてくれるから。

イ　人の話を聞くことが苦手な生徒（１割）

- 興味がないことは面白くない、飽きてしまうから。

ウ　話を聞いた後に、確認や質問はしない（５割以上）

アンケートから、生徒が、相手意識を十分にもって話していないこと、また、相手意識を十分にもって話を聞いていないと生徒自身が感じていることが分かった。

以上のような本地区の生徒の実態から、以下の取組を実践することとした。

（２）　「話すこと」の学習について：実践例「分かりやすく紹介しよう」（東京書籍　１年）
「説得力のある提案をしよう」（東京書籍　２年）

①　モデルを示す

スピーチやプレゼンテーションにおいて、どうすれば相手に分かりやすい発表ができるのか、モデルを参考に生徒が検討する場面を設定した。また、授業の導入や展開の中でモデルを示すことで生徒にゴールイメージをもたせるようにした。

② 言語活動の工夫

「誰に」（相手）、「何のために」（目的）、「何を」（場面・状況）、「どのように」（方法）伝えるのかを明確にした言語活動の場面を設定し、生徒の話すことへの意識を高めようとした。特に「どのように」伝えるかという点では、スピーチやプレゼンテーションの後に、互いに感想を述べたり、相互評価をしたりする中で、相手にしっかりと伝わっているかどうかを確認できるような場面を設定した。

③ ＩＣＴの活用

ビデオやタブレットを用いることで、自分の姿を振り返り、お互いの良い点や改善したい点を見つけ、話す能力を高めるとともに、自信をもって発表の場に臨ませるようにした。また、そこでの映像記録を他学級、他校への参考モデルとしても活用した。

（３） 「聞くこと」の学習について：実践例「聞き取って整理しよう」（東京書籍 １年）
「聞き取って吟味しよう」（東京書籍 ２年）

① 聞く姿勢の指導

聞き手の姿勢が「話すこと」の意欲を高めることにつながることを説明し、基本的な姿勢を改めて指導した。特に、聞き手がうなずきや表情などの反応を示すことの大切さを指導した。

② 聞く技能の指導

生徒の聞く力を高めるために、「聞き取りメモ」をとる学習訓練を繰り返し、それを使って聞いた話を確認する学習を行った。また、帰りの会での１分間スピーチを、メモをとらせて要約させる練習を行った。

３ 研究の成果と今後の課題

（１）研究の成果

① 「話すこと」のモデルを適宜示しながら学習を進めたことで、生徒はゴールをより具体的にイメージすることができ、「話すこと」への意識を高めることができた。

② 相手や目的を意識した言語活動の場面を設定したことで、発表をした生徒だけでなく、聞いている生徒も興味をもって真剣に聞くことができていた。また、「話を聞く場」を意図的に設定し聞き取り練習を行うことで、生徒の話すことや聞くことに対する苦手意識や抵抗が少なくなってきていることが授業後の感想から伺えた。

③ タブレットを活用して発表の様子を確認しながら練習をしたことで、自分の発表を客観的にとらえることができた。また、教師が評価する際にも活用することができた。

（２）今後の課題

① 授業の中で効果的に活用するためにも、教師がＩＣＴ機器を十分に使いこなす技術を身に付ける必要がある。

② 相手を意識した話し方の指導をさらに充実させる工夫が必要である。

《参考文献》

○ 文部科学省「学習指導要領解説中学校国語編」（２００８）

○ 田中洋一「国語力を高める言語活動の新展開『話すこと・聞くこと』編」東洋館出版（２００９）

○ 野口芳宏「鍛える国語教室 子どもの話す技術を鍛える」明治図書（２００６）